

**[A年]受難節第3主日(2025年3月23日)****【旧約聖書日課】ヨブ記 1章1～12節**

1ウツの地にヨブという人がいた。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていた。2七人の息子と三人の娘を持ち、3半七千匹、らくだ三千頭、牛五百くびき、雌ろば五百頭の財産があり、使用人も非常に多かった。彼は東の国一番の富豪であった。

4息子たちはそれぞれ順番に、自分の家で宴会の用意をし、三人の姉妹も招いて食事をするにしていた。5この宴会が一巡りするごとに、ヨブは息子たちを呼び寄せて聖別し、朝早くから彼らの数に相当するいけにえをささげた。「息子たちが罪を犯し、心の中で神を呪ったかもしれない」と思ったからである。ヨブはいつもこのようにした。

6ある日、主の前に神の使いたちが集まり、サタンも来た。7主はサタンに言われた。

「お前はどこから来た。」

「地上を巡回しておりました。ほうぼうを歩きまわっていました」とサタンは答えた。

8主はサタンに言われた。

「お前はわたしの僕ヨブに気づいたか。地上に彼ほどの者はいまい。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きている。」

9サタンは答えた。

「ヨブが、利益もないのに神を敬うのでしょうか。」

10あなたは彼とその一族、全財産を守っておられるではありませんか。彼の手の業をすべて祝福なさいます。お陰で、彼の家畜はその地に溢れるほどです。11ひとつこの辺で、御手を伸ばして彼の財産に触れてごらんください。面と向かってあなたを呪うにちがいありません。」

12主はサタンに言われた。

「それでは、彼のものを一切、お前のいいようにしてみるがよい。ただし彼には、手を出すな。」

サタンは主のもとから出て行った。

**【使徒書日課】ペトロの手紙一 4章12～19節**

12愛する人たち、あなたがたを試みるために身にふりかかる火のような試練を、何か思いがけないことが生じたかのように、驚き怪しんではなりません。13むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど喜びなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びに満ちあふれるためです。14あなたがたはキリストの名のために非難されるなら、幸いです。栄光の霊、すなわち神の霊が、あなたがたの上にとどまってくくださるからです。15あなたがたのうちだれも、人殺し、泥棒、悪者、あるいは、他人に干渉する者として、苦しみを受けることがないようにしなさい。16しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、決して恥じてはなりません。むしろ、キリスト者の名で呼ばれることで、神をあがめなさい。17今こそ、神の

家から裁きが始まる時です。わたしたちがまず裁きを受けるのだとすれば、神の福音に従わない者たちの行く末は、いったい、どんなものになるだろうか。

18「正しい人がやっと救われるのなら、

不信心な人や罪深い人はどうなるのか」

と書かれているとおりです。19だから、神の御心によって苦しみを受ける人は、善い行いをし続けて、真実であられる創造主に自分の魂をゆだねなさい。

**【福音書日課】マタイによる福音書 16章13～28節**

13イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。14弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」15イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」16シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。17すると、イエスはお答えになった。「シモン・バルヨナ、あなたは幸いです。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。18わたしも言うておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てて。陰府の力もこれに対抗できない。19わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。」20それから、イエスは、御自分がメシアであることをだれにも話さないように、と弟子たちに命じられた。

21このときから、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。22すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」23イエスは振り向いてペトロに言われた。「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」24それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。25自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。26人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があるのか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。27人の子は、父の栄光に輝いて天使たちと共に来るが、そのとき、それぞれの行いに応じて報いるのである。28はつきり言うておく。ここに一緒にいる人々の中には、人の子がその国と共に来るのを見るまでは、決して死なない者がいる。」

## 「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

## ヨブ記1章1～12節

1ウツの地にヨブという名の人がいた。この人は完全で、正しく、神を畏れ、悪を遠ざけていた。2彼には七人の息子と三人の娘があった。3また、彼は羊七千匹、らくだ三千頭、牛五百頭、雌ろば五百頭の家畜を持ち、僕も非常に多かった。この人は東の人びとの中で最も大いなる人であった。

4息子たちはそれぞれ自分の日に、その家で祝宴を催し、使いを送って三人の姉妹たちをも呼び寄せ、食事を共にするのが常であった。5その宴会が一巡りする度に、ヨブは使いを送って子どもたちを聖別し、朝早く起きて、彼らの数に相当する焼き尽くすいけにえを献げた。「もしかすると子どもたちは罪を犯し、心の中で神を呪ったかもしれない」と思ったからである。ヨブはいつもこのようにしていた。

6ある日、神の子らが来て、主の前に立った。サタンもその中に来た。7主はサタンに言われた。

「あなたはどこから来たのか。」

サタンは主に答えた。

「地を巡り、歩き回っていました。」

8主はサタンに言われた。

「あなたは私の僕ヨブに心を留めたか。地上には彼ほど完全で、正しく、神を畏れ、悪を遠ざけている者はいない。」

9サタンは主に答えた。

「ヨブが、理由なしに神を畏れるでしょうか。」

10あなたは彼のために、その家のために、また彼の所有物のために、周りに垣根を巡らしているではありませんか。あなたが彼の手の業を祝福するので、彼の家畜は地に溢れています。11しかし、あなたの手を伸ばして、彼のすべての所有物を打ってごらんください。彼は必ずや面と向かって、あなたを呪うに違ひありません。」

12主はサタンに言われた。

「見よ、彼のすべての所有物はあなたの手の中にある。ただし、彼には手を出すな。」

サタンは主の前から出て行った。

## ペトロの手紙一4章12～19節

12愛する人たち、あなたがたを試みるために降りかかる火のような試練を、何か思いがけないことが起こったかのように、驚き怪しんではなりません。13かえって、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど、喜びなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びに満ち溢れるためです。14キリストの名のゆえに非難されるなら、あなたがたは幸いです。栄光の霊、すなわち神の霊が、あなたがたの上にとどまってくくださるからです。

15あなたがたのうち誰も、人殺し、盗人、悪を行う者、あるいは、他人に干渉する者として、苦しみを受けることがないようにしなさい。16しかし、キ

リスト者として苦しみを受けるのなら、恥じてはなりません。かえって、この名によって神を崇めなさい。17なぜなら、裁きが神の家から始まる時が来たからです。私たちがまず裁きを受けるのだとすれば、神の福音に従わない者たちの行く末は、いったい、どうなるでしょうか。

18「正しい人がかろうじて救われるのなら、不敬虔な者や罪人はどうなるのか」

19ですから、神の御心によって苦しみを受ける人は、善い行いをし続けて、真実であられる創造主に自分の魂をゆだねなさい。

## マタイによる福音書16章13～28節

13イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに、「人々は、人の子を何者だと言っているか」とお尋ねになった。14弟子たちは言った。「洗礼者ヨハネだと言う人も、エリヤだと言う人、ほかに、エレミヤだとか、預言者の一人だと言う人もいます。」15イエスは言われた。「それでは、あなたがたは私を何者だと言うのか。」16シモン・ペトロが答えた。「あなたはメシア、生ける神の子です。」17すると、イエスはお答えになった。「バルヨナ・シモン、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、天におられる私の父である。18私も言うておく。あなたはペトロ。私はこの岩の上に私の教会を建てよう。陰府の門もこれに打ち勝つことはない。19私はあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上で結ぶことは、天でも結ばれ、地上で解くことは、天でも解かれる。」20それから、イエスは、ご自分がメシアであることを誰にも話さないように、と弟子たちに命じられた。

21この時から、イエスは、ご自分が必ずエルサレムに行き、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。22すると、ペトロはイエスを脇へお連れして、いさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」23イエスは振り向いてペトロに言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは私の邪魔をする者だ。神のことを思わず、人のことを思っている。」24それから、弟子たちに言われた。「私に付いて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を負って、私に従いなさい。25自分の命を救おうと思う者は、それを失い、私のために命を失う者は、それを得る。26たとえ人が全世界を手に入れても、自分の命を損なうなら、何の得があるか。人はどんな代価を払って、その命を買い戻すことができようか。27人の子は、父の栄光に輝いて天使たちと共に来るが、その時、それぞれの行いに応じて報いるのである。28よく言うておく。ここに立っている人々の中には、人の子が御国と共に来るのを見るまでは、決して死なない者がいる。」

**黙想のためのノート****次主日の教会暦と聖書日課**

・3月23日「受難節第3主日」の日課主題は「受難の予告」。

・旧約聖書日課は、「ヨブ記」から、「ヨブの災厄物語」の冒頭部分。使徒書日課は、「ペトロの手紙一」から、あらためて試練を耐え偲ぶべきことを勧める箇所。福音書日課は、「マタイによる福音書」から、「ペトロの信仰告白と主イエスの受難予告」の箇所。

**旧約日課(ヨブ1章より)**

・「ヨブ記」は、ユダヤ正典(ヘブライ語聖書)「諸書」の中で「エメット(真実)」に区分される三文書(詩編、箴言、ヨブ記)の一つ。「エメット」の呼称は、三文書の書名から頭文字を取ったもので、ヘブライ語で「真実」の意になる。これら三文書は、いずれも詩文様式の作品で、これらに特有の表記法などが知られている。ただし、「ヨブ記」は、大半の詩文様式の部分(3~40章)を挟んで、散文形式の説話伝承物語が置かれている(1~2章、40章)。正典として編纂された「ヨブ記」は、前5~3世紀、ペルシア支配時代からヘレニズム時代(ギリシア人支配の時代)に成立したとされるが、元になっていると推認される「義人ヨブ伝承」は「エゼキエル書」にも言及が見られる(エゼ14章)など、古い伝承物語が背景にあると考えられる。近年は、フェニキア文明に属するウガリットで出土した前16~13世紀ごろに年代づけられる叙事詩「ケレト王伝説」と「ヨブ物語」の関連性が指摘されている。他方で、古代オリエントおよびインダス文明には多くの「義人伝承物語」が知られており、「義人」が苦難や困難を経てなお「義人」としての姿を示すという展開は典型的なパターンであることが知られる。

・「ヨブ記」は、詩文様式の間部を挟んで構成された散文形式の説話が全体として一つの物語を構成するように編纂されている。全体として「義人の被る苦難の意味を問う」という主題は共通しているが、一貫した思想によって展開しているとは言い難く、異なる伝承資料を組み合わせて編纂されていると考えられる。すなわち、散文形式の「枠」の物語が示すのは、典型的な「義人伝承物語」に見られるような「義人ヨブ」の徹底した神に対する信頼を称揚する信仰至上主義の思想であるが、詩文様式の間部が示すのは、現実世界で経験される不条理によって浮き上がる信仰至上主義の限界を明らかにし、それを超える神の義のあり様を知ることの意義である。この間部の議論が成功しているか否かは、評価が割れており、特に現代において本書は、不条理の現実に向き合わなければならなくなった者が信仰的内省を深めるための同伴者の位置づけで扱われがちである。

・日課箇所は、伝承説話物語の冒頭にあたり、ヨブの受けるさまざまな苦難や困難が、神の許しのもとで「サ

タン」によってもたらされるものであると描かれる。「サタン(サターナ)」は、正典中で「妨げる者」(民22:22)とも訳される「主の御使い」であり、神の支配に対立する存在ではない。「ヨブ記」でも、この神の一元支配的世界観を前提として考えると考えられるが、ペルシア宗教的な善悪二元的世界観の影響がないとも言えない。

**使徒書日課(Iペトロ4章より)**

・「ペトロの手紙一」は、新約正典中、「共同書簡」に区分して扱われる書簡文書。「使徒ペトロ」によってアナトリア半島各地の教会に宛てて記された書簡として構成されている。末尾(5:12)には、本書簡が「シルワノによって」記されたことが付言されているが、当時の習慣で書簡作製を専門業者や書字に長けた者に託し口述筆記させることは一般的であった。「シルワノ」なる人物の名は、「パウロ書簡集」にも見られ、「テモテ」と共にパウロの協力者であったと考えられる(Iコリ1:19、Iテサ1:1、IIテサ1:1)。近代の聖書学者の中には、本書をペトロの手によらない偽書(ペトロの名によって別の者が著した文書)として扱う者もある。

・本書簡は、キリストを直接知らずに信じるようになった世代の信者に対して、信者としての生き方の基本姿勢を教え、助言する内容となっている。その基調には、「キリストが受けられた試練や苦難を、キリストを信じる信者も同様に引き受ける」という考えがある。これを、「迫害下の信者に対して殉教の意義を説く教え」というように限定的に解釈しなければいけない理由はない。「福音書」には、主イエスのいわゆる「受難物語」だけでなく、「荒野の誘惑」説話が置かれており、信者であることによって生ずる迫害ではない、より一般的普遍的な生活経験の中における試練・誘惑の問題が主イエスと結びついて扱われている。

・16節「キリスト者」は、「クリスティアノス」の訳語で、新約中では他に「使徒言行録」に2例見られる(使徒11:26、26:28)。「使徒言行録」(11:26)によれば、この呼称が弟子たちに対して用いられるようになったのは、シリア・アンティオキアでのこと。その描写によれば、この呼称は自称ではなく周囲からの他称(蔑称?)として用いられ始めたが、これを弟子たちが自称として用いるようになったと推認される。

・16節直訳「しかし、(苦しみを受けることが)キリスト者としてであるのならば、その人は恥じるべきではなく、むしろ、その名にあって神を誉むべきである」。この節は14節「あなたがたがキリストの名にあって非難されるのならば、あなたがたは幸いな者、あなたがたの上に栄誉と神の霊がとどまる」(直訳)の表現を援用しながら、同主旨を言い換えていると見ることができる。ただし、16節の「その名にあって」(新共同訳では「キリスト者の名で呼ばれることで」)が「誰の名」であるのかは、文法解釈上の問題がある。厳密に解釈すれば、「その」が中性形単数で表されているので、14節「神の霊」を指示するが、「霊の名」という表現は、マタイ28:19を除いて知られない。

## 福音書日課(マタイ 16 章より)

・日課箇所は、「ペトロの信仰告白＋主イエスの受難予告」という一連の伝承として共観福音書が共通して伝えている説話。この一連の伝承は、続く「主イエスの変貌」(マタイ 17:1~13)、「悪霊に憑かれた子を癒す」(同 17:14~20)および「二度目の受難予告」(同 17:22~23)に至るまで共観福音書が共通した構成で伝えており、「イエス伝承」の中でも「受難物語」と結びつく基底的な伝承と考えられている。日課箇所は、「マルコ」を基準に比較したとき、「ルカ」はより簡略に伝える傾向があるのに対して、「マタイ」はより詳細な情報を付加する傾向にある。

・特に「マタイ」で特徴的なのは、「ペトロの信仰告白」の核心部分の拡大で、17~19 節は「マタイ」だけが伝える内容となっている。ペトロはここで、まず「シモン・バルヨナ」すなわち「ヨナの子シモン」と呼ばれ(ヨハネ 21:15 等では「ヨハネの子シモン」と呼ばれている)、人としての父子関係が明示された上で、信仰告白を可能にさせたお方として「天の父」が提示され、彼の新しい父子関係が宣言されている。この「天の父」との父子関係を宣言された者としてここで与えられるのが、「岩」の意味を持つ「ペトロ」の名である。この「天の父の子」としての「ペトロ」の上に、「イエスの教会(エクレシア)」が建てられると言われている。「教会」の用例は、福音書中ではこの箇所とマタイ 18:17 の 2 例のみ。

・この付加箇所は、教会史上、ペトロの教会における権威を根拠づける聖句とも解釈され、ローマ教会が「教皇至上権」を主張する際にも根拠にされた。プロテスタント神学者は、これを、「ペトロ」が権威付与された出来事としてではなく、「教会」が権威付与された出来事として解釈する。

## 来週の誕生日 (3 月 23 日~29 日)

## 主日礼拝の讚美歌から

・21-160「深き悩みより」(= I 258「貴きみかみよ」)は、M・ルターが宗教改革運動の初期にドイツ人庶民のための詩編歌として作詞した一つで、詩編 130 編に基づいて作詞、1524 年出版の讚美歌集に加えられた。いくつかの曲で歌われてきたが、160 番は M・ルター自身が古い教会旋法に基づいて作曲したもの。同じ詞にダハシュタインの曲を付したものが 21-22 番。『讚美歌 21』に採用される際に原詞に基づいて改訳されている。

・21-515「きみのたまものと」(= II 188)は、19-20 世紀米国バプテスト派牧師で大学教員など教育畑で活動したグロースの作詞。曲は 19 世紀英国の女性ピアニスト・バーナードの作曲。

・21-522「キリストにはかえられません」(= II 195)は、20 世紀に入ってから作られた後期福音唱歌の一つ。作詞者レア・ミラーについては不詳。作曲は、自由メソジスト教会牧師の家に生まれた音楽伝道者でピリー・グラハムと共に放送伝道や大衆伝道に従事した G・ビヴァリー・シェーの作曲。

## 21-160「深き悩みより」

## Aus Tiefer Not Schrei Ich zu Dir

1. Aus tiefer noth schrei' ich zu dir. / Herr Gott! erhö'r' mein rufen! / Dein gnädig ohr neig her zu mir. / Und meiner bitt' sie öffne: / Denn so du wilt das sehen an. / Was sünd' und unrecht ist gethan. / Wer kann Herr! für dir bleiben?
2. Bei dir gilt nichts denn gnad' und gunst. / Die sünde zu vergeben: / Es ist doch unser thun umsonst. / Auch in dem besten leben: / Für dir niemand sich rühmen kann. / Deß muß dich fürchten jedermann. / Und deiner gnaden leben.
3. Darum auf Gott will hoffen ich. / Auf mein verdienst nicht bauen: / Auf ihn mein herz soll lassen sich. / Und seiner gute trauen. / Die mir zusagt sein werthes wort. / Das ist mein trost und treuer hort. / Deß will ich allzeit harren.
4. Und ob es währt bis in die nacht. / Und wieder an den morgen. / Doch soll mein herz an Gottes macht / Verzweifeln nicht noch sorgen. / So thu' Istrael rechter art. / Der aus dem Geist erzeuget ward. / Und seines Gott's erharre.
5. Ob bei uns ist der sünden viel. / Bei Gott ist vielmehr gnaden. / Sein' hand zu helfen hat kein ziel. / Wie groß auch sei der schaden. / Er ist allein der gute hirt. / Der Istrael erlösen wird. / Aus seinen sünden allen.

## 21-515「きみのたまものと」

## Give of your best to the Master

1. Give of your best to the Master, / Give of the strength of your youth; / Throw your soul's fresh, glowing ardor / Into the battle for truth. / Jesus has set the example, / Dauntless was He, young and brave; / Give Him your loyal devotion, / Give Him the best that you have.

Refrain: Give of your best to the Master; / Give of the strength of your youth, / Clad in salvation's full armor, / Join in the battle for truth.

2. Give of your best to the Master, / Give Him first place in your heart; / Give Him first place in your service, / Consecrate now ev'ry part. / Give and to you shall be given; / God His beloved Son gave; / Gratefully seeking to serve Him, / Give Him the best that you have. [Refrain]
3. Give of your best to the Master, / Naught else is worthy His love; / He gave Himself for your ransom, / Gave up His glory above; / Laid down His life without murmur, / You from sin's ruin to save; / Give Him your heart's adoration, / Give Him the best that you have. [Refrain]

## 21-522「キリストにはかえられません」

## I'd rather have Jesus

1. I'd rather have Jesus than silver or gold; / I'd rather be His than have riches untold; / I'd rather have Jesus than houses or lands. / I'd rather be led by His nail pierced hand

## [Chorus]

Than to be the king of a vast domain / Or be held in sin's dread sway. / I'd rather have Jesus than anything / This world affords today.

2. I'd rather have Jesus than men's applause; / I'd rather be faithful to His dear cause; / I'd rather have Jesus than worldwide fame. / I'd rather be true to His holy name [Chorus]
3. He's fairer than lilies of rarest bloom; / He's sweeter than honey from out the comb; / He's all that my hungering spirit needs. / I'd rather have Jesus and let Him lead [Chorus]